

各関係機関団体の長
各病虫害防除員 殿

福岡県農林業総合試験場長
(福岡県病虫害防除所)

令和 2 年度病虫害発生予察注意報第 3 号について

本年のチャバネアオカメムシは越冬成虫数が多く(令和元年度病虫害発生注意報第 4 号参照)、4 月～7 月中旬の予察灯やフェロモントラップの誘殺数も多かったです。

一部地域では 6 月下旬にナシで被害果が確認されています。また、7 月中旬以降、旧浮羽郡を中心にナシやカキで被害果が急激に増加しています。

今後、8 月末頃まで、予察灯やフェロモントラップの誘殺数が増加する時期と量に留意するとともに、果樹園内への飛来状況の把握に努め、適期防除を行うよう指導願います。

注意報第 3 号

- 1 対象作物：果樹全般（ナシ、カキ、カンキツ等）
- 2 病虫害名：果樹カメムシ類（主にチャバネアオカメムシ）
- 3 発生地域：県下全域
- 4 果樹園への飛来ピークと飛来時期の発生量：7 月中旬～8 月中旬、前年より多 <2012 年並>
- 5 ナシ、カキでの被害量：昨年より多 <8 月は 2018、2014、2012 年よりやや多>

6 注意報の根拠

(1) 7 月 3 半旬までの発生概況（チャバネアオカメムシ）

チャバネアオカメムシの越冬量は 5.0 頭/m²と過去 10 年間で最も多く、チャバネアオカメムシの主要な餌であるヒノキ球果の着生量は「少 (2.0)」と 2012 年並に少なかった(令和 2 年度病虫害発生予察注意報第 3 号より)。

4 月 1 半旬～7 月 3 半旬の予察灯とフェロモントラップでの成虫誘殺数は 2018、2014、2012 年と同様に多い。また、2018、2014、2012 年は多くの地域で 7 月下旬から予察灯への成虫誘殺数が増加しており、ヒノキ球果の着生量も少ないことから、越冬世代が果樹園へ飛来していると考えられる(図 1、2)。

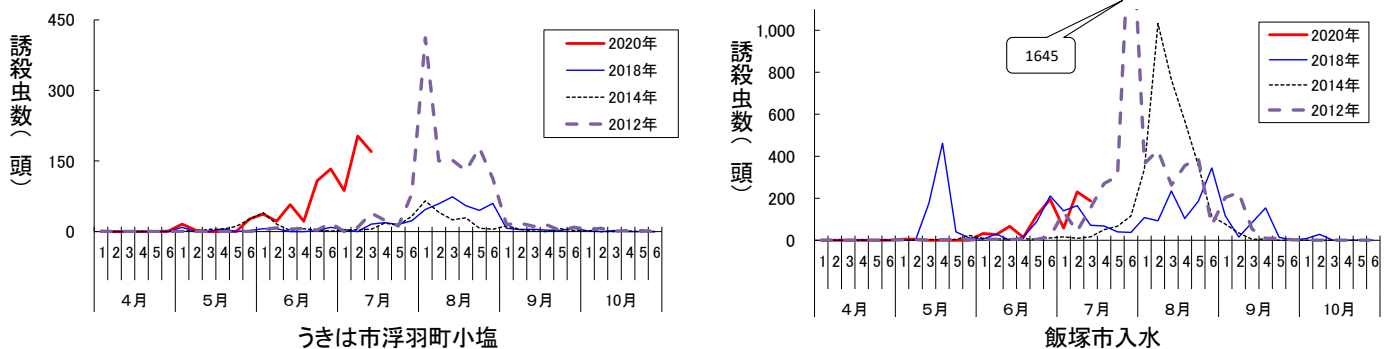


図 1 予察灯におけるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数の推移

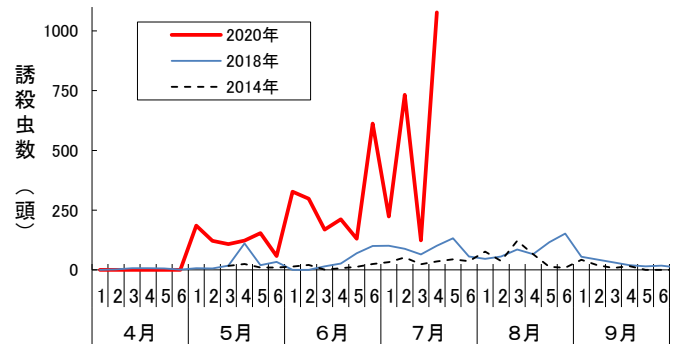
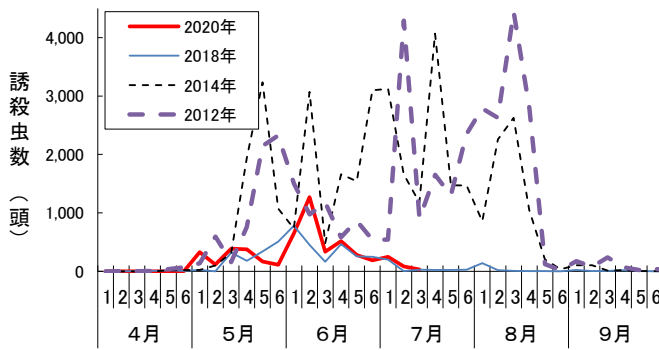


図2 フェロモントラップにおけるチャバネアオカメムシ成虫誘殺数の推移

(2) 7月5半旬の予察調査結果

1) ナシ、カキでの被害果発生状況

各11地点の被害果率は、ナシ、カキともに前年より多く、「前期発生型」年の中では最も高かった。(表2)。

表2 ナシ及びカキの7月5半旬における被害果発生状況

年/項目		2012	2014	2018	2019	2020	平年
ナシ(無袋赤梨)	被害果率(%)	0.3	0.3	0.3	0.2	1.1	0.2
	発生ほ場率(%)	9.1	18.2	30.0	27.3	57.1	12.3
カキ(富有)	被害果率(%)	0.1	0	0.0	0.1	1.7	0.1
	発生ほ場率(%)	7.1	0	9.1	18.1	70.0	5.9

注1) 2020年のナシは7カ所平均

7 防除上注意すべき事項

- 今後のヒノキ上での発生状況や予察灯での誘殺状況については、病害虫防除所ホームページの「病害虫の発生状況」を参照する。(http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/doukou/hassei.html)
- 果樹園への飛来時期は地域により異なる。また、同一園内でも被害発生状況は偏りがあるため、園内全体を注意して見回り、飛来を認めたら直ちに防除する。
- 成虫は広範囲に移動するため、薬剤散布は広域一斉防除の効果が高い。また、薬剤防除の際は、対象樹種の収穫前日数等農薬使用基準を遵守する。
- 降雨があると薬剤の残効が短くなるので、多飛来の場合は散布間隔に注意する。

○病害虫防除所の発行する情報の入手は、インターネットをご利用ください。
「福岡県病害虫防除所ホームページ」 <http://www.jppn.ne.jp/fukuoka/>



最新の病害虫発生状況